

タケダ・ウェルビーイング・プログラム 2012 助成の概要と推薦理由

助成番号 12-3-1

プロジェクト名 地域から長期入院の子どもたちに楽しい時間と笑顔のプレゼント
団体名 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
代表者名 岡田 泰子
所在地 千葉県
助成額 142万円
助成期間 2012年12月1日～2013年11月30日
設立年 1988年
URL <http://chiba.gekijou.org/>



入院している子どもたちも日々成長しており、他の子どもと同様に情緒面への働きかけや家族・友達と触れ合うことは大切である。近年病院も変わりつつあり、ボランティアやアーティストの受け入れも進んできているが、コーディネーターの存在が要となるといわれている。

この団体は、千葉県内の子どもの発達する権利を保障する生活文化環境をつくることを目指し、舞台芸術の体験提供やチャイルドラインなどの子どもを対象とした支援を行っているが、2008年から千葉県下の小児病棟において、プロのパフォーマーによる上演に取り組んでいる。

これまで2年間の助成において、対象の病院を新たに開拓しながら、7病院で10回のプロのパフォーマーによる生の舞台を上演し、長期入院中の子どもにたくさんの笑顔を届けてきた。また新たな取り組みとして、地域の人材がコーディネーターや講師となり、子どもと保護者が一緒に楽しく過ごすことのできる、図工などの参加体験型のワークショップのプログラムを開発し、5病院で11回実施してきた。加えて運営コーディネーターの育成も図ってきた。

今回の3年目の助成では、これまで作り上げてきた参加体験型ワークショップ・プログラムを充実させて運営の基礎を固めるとともに、病院を地域から応援する運営コーディネーターのブラッシュアップを図る。さらに、関係者間の信頼性を高め、活動の開始や展開のための「ガイドライン」作成に取り組むことで、この間の一つの集大成とする。

本プロジェクトは、大都市の病院に集中しがちな活動を、地域で定着させつつある。また今後、地域のNPOが地元の病院と協力して行う活動の波及が期待されるが、地域のコーディネーターが病院と地域をつなぐことを意識しながら丁寧に取り組んでいる点は、モデル事例として評価される。特に、今回取りまとめる「ガイドライン」は、今後新たに活動を始めたり、活動のレベルアップを図ろうとしている人々に参考となるであろう。全国の子ども劇場のネットワーク内への発信は勿論のこと、それ以外の各地で取り組む人たちに幅広く発信されることを期待して助成した。